

課題番号26 担い手を核とした持続可能な経営体の育成



～ 共に協力して何事も成功しよう ～

対象：沼田町共成地区（16戸）



1 活動の背景

経営主の平均
年齢47歳

現 状

課 題

- ・世代交代により若い経営主が多い
- ・労働力は家族労働＋一部雇用形態
- ・分析により水田のリン酸が過多
- ・転作品目の収量品質が安定しない

- ・労働力不足対策⇒効率化・省力化への対応
- ・若手農業者の栽培技術習得及び管理作業のレベルアップ

2 活動の経過

（1）担い手のスキルアップ

ア 水稻本田のリン酸減肥⇒対象若手農業者7戸

○リン酸減肥による施肥改善⇒施肥設計、生育・収量調査、現地研修会

イ 転作品目（畑作・園芸）の収量品質向上に向けた技術改善⇒対象若手農業者7戸

- 秋播き小麦の適切な追肥⇒生育調査に基づく追肥の可否判定、現地研修会
- そばの緑肥を活用した減肥⇒緑肥の生育量に基づくそばの基肥設計、現地研修会
- ブッチーのドローンを使った防除⇒うどんこ病発生予察・防除判定、現地研修会
- スターパスの赤色電照処理による2番花品質向上⇒電照作業支援・生育調査、現地研修会

（2）効率的な農作業体系の確立⇒対象16戸

○水稻の疎植栽培の導入⇒生育・収量調査、現地研修会

苗床もギリギリ
だよ



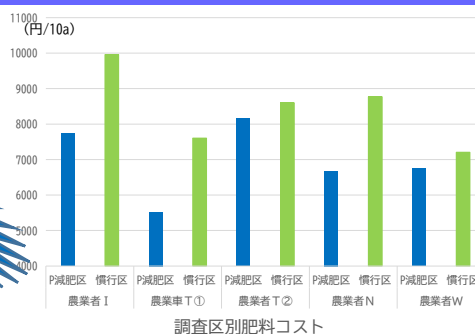
3 成果の具体的内容

（1）担い手のスキルアップ

ア 水稻本田のリン酸減肥（改善戸数：目標5戸 ⇒ 実績5戸）

- 生育調査の経過を伝えると共に、実際に水田を見比べることによって、低リン酸肥料栽培と慣行肥料栽培の差がないことを確認しました。
- 低リン酸肥料銘柄は、基本的に安価であり、コスト低減に繋がることを理解しました。
- JAの肥料高騰対策と連携し推進を図ったことから、対象中の1戸が、R6から全面的に低リン酸肥料へ切り替えます。

決め手は肥料
コスト！



低リン酸肥料でも
良いんじゃない？



イ 転作品目（畑作・園芸）の収量品質向上に向けた技術改善

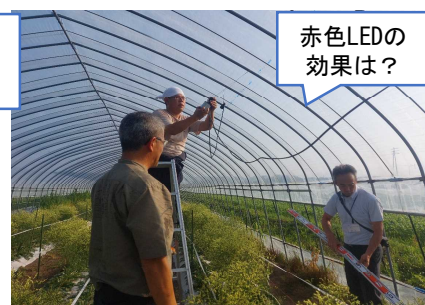
（改善戸数：目標2戸 ⇒ 実績4戸）

○秋まき小麦は、生育量に応じた追肥量を提案し、追肥を実施しました。

○融雪後、そば畑の緑肥の生育量を確認しましたが、緑肥の生育が悪く、想定していた基肥減肥には至りませんでした。

○フッチーのドローン防除は、実際に作業を行うことで、利便性を確認しました。

○花・野菜技術センターの協力の下、赤色LEDの電照処理で、2番花の茎数が増えることを確認しました。



（２） 効率的な農作業体系の確立

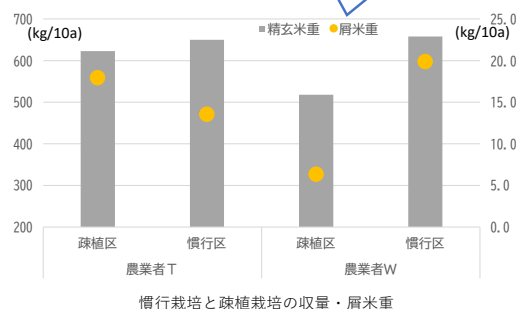
ア 水稻の効率化・省力化技術の導入（改善戸数：目標2戸 ⇒ 実績2戸）

雑草に負けた！

○展示ほを設置し、実際に目にするすることで、生育の違いなどの理解を深めました。

○初期の茎数確保が緩慢であったことから、慣行栽培に比べ㎡茎数が少なく経過しましたが、株間を22～25cmに設定したことで、茎数不足を最小限に止めました。

○1戸の農業者の収量が下がった理由は、難防除雑草多発による生育抑制でした。次年度に向けて対策を図っています。



疎植栽培導入後のプラン

慣行栽培（株間13cm）から疎植栽培（株間25cm）にすることで、移植に必要な苗箱は大凡半減します。省力化が見込めるほか、余剰育苗ハウスに高収益作物などを栽培することで、夏～秋の所得増が期待されます。



4 今後の課題と対応

（１）担い手のスキルアップ

ア 水稻本田のリン酸減肥

- ・全面導入など定着がなされたことから本年度で終了し、次年度以降は、個人毎に経営上の問題解消について、取り組み内容の目標を設定し、その目標を達成するための支援を行っていく。

（２）効率的な農作業体系の確立

ア 水稻の効率化・省力化技術の導入

- ・疎植栽培の生産性向上（収量・品質）技術について支援を行っていく。